

# 事業報告書

令和 6 年 度

自 令和 6 年 4 月 1 日  
至 令和 7 年 3 月 31 日

一般財団法人 青少年国際交流推進センター

## 目次

一般財団法人青少年国際交流推進センター30周年の歩み.....	2
一般財団法人青少年国際交流推進センター30周年の実績.....	4
令和6年度事業の概況.....	8
<b>1. 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力の概況.....</b>	<b>8</b>
A. 青少年国際交流スタディツアーの実施.....	8
B. 国際交流リーダー養成セミナーの実施.....	9
B-1 国際交流リーダー養成セミナーの実施.....	9
B-2「イスラームを知ろう！」の実施.....	9
C. 国際理解教育支援プログラムの実施.....	10
<b>2. 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力.....</b>	<b>12</b>
A. 内閣府の実施する青年国際交流事業への協力.....	12
B. 他団体の国際交流事業への協力.....	27
<b>3. 青少年国際交流に関する啓発及び研修の概況.....</b>	<b>28</b>
A. 推進委員会議.....	28
B. 第31回青少年国際交流全国フォーラム.....	28
C. 団体会員のブロックイベント(青少年国際交流を通じて国際社会や地域社会への貢献を考える集い).....	29
<b>4. 青少年国際交流に関する出版物の刊行及び広報活動の概況.....</b>	<b>29</b>
A. 機関誌の刊行.....	29
B. 事業報告書の作成.....	29
C. ホームページの更新・オンラインメディアの活用.....	29
D. 一般財団法人青少年国際交流推進センターパンフレットの配布.....	29
<b>5. 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究の概況.....</b>	<b>29</b>
A. 青少年国際交流事業に関する情報収集.....	29
B. 青少年国際交流に関する調査研究.....	29
<b>6. 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等の概況.....</b>	<b>30</b>
A. 活動奨励金等の交付.....	30
B. コンサルティング事業等.....	30
<b>7. その他.....</b>	<b>30</b>
A. その他の支援業務等.....	30

## 一般財団法人青少年国際交流推進センター 30年の歩み

一般財団法人青少年国際交流推進センター（CENTERYE）は1994年に設立され、以後30年間にわたり、国際交流を切り口に青年を育成する場を提供し、多くのグローバルリーダーを輩出してきました。これまでの実績は、100か国、24,000人（日本及び外国青年）に及びます。主な事業は、総務庁、内閣府の国際交流事業ですが、外務省、ASEANセンター、民間団体などとの連携で組織を発展させてきました。

### ■ 発展の経緯

マイルストーンを挙げると、4つのステージがあります。創業期に当たる最初の10年間は、主に総務庁の招へい事業、国内プログラムの運営を積極的に行いました。少人数のスタッフでスタートしましたが、日本青年国際交流機構（IYEO）と共に事業を発展拡充させてきました。IYEOと共にプログラムを提案し、新規事業を実施したのが成長期にあたるまさにこの頃です。事後活動組織の活性化、多様な分野の青年リーダーを育てる事業を実施したことで、地域に根づくリーダーの育成につながりました。

内閣府へ移行後の成熟期には、内閣府だけでなく、外務省、外国政府等の主催事業を実施運営し、それまでに蓄積したノウハウを活かして、青年たちが参加できる国際交流事業を増やしてきました。

第2創業期ともいえる2020年頃には、パンデミックの影響で事業規模は縮小し、オンライン事業の実施、助成金活用など、「国際交流」という組織名の団体としては大変厳しい時期となりましたが、この間も国際交流事業を切り口とした青年育成の可能性を信じ、事業再開までの間に組織のアップデートをしようと職員一同で協議する場を重ねて、新規事業を立ち上げると共に、組織体制の強化にも力を入れました。

### ■ 30周年記念イベント

30年という節目を迎え、希望ある未来に向けて新しい出発をするという思いを込め、令和6年7月12日、東京都千代田区の都市センターホテルにて、一般財団法人青少年国際交流推進センター設立30周年記念イベントを開催しました。総勢75名が参加し、第1部は、ウェアラブル脳波計等の開発を手掛けるEMOTIV製品開発担当副社長のウルディス・レイタツ氏による基調講演、第2部では交流会が実施され、参加者相互が懇親を深める機会となりました。

### ■ 推進センターのこれから

交流事業が実施できなかった期間に、「なぜ推進センターが青年国際交流事業をしているのか」「本質的なねらいは？」について皆で考える場を持ちました。そうしてたどり着いたミッションが、「国際交流を通じて、若者とよりよい世界を作ります」です。

未来を担うリーダーにふさわしい人材の育成を目的に掲げて推進センターを設立し、30年を経て、育成された青年たちがどんな世界を作るのかを思い描いた時、多様な人々を包括しつつ、それぞれの「よりよい」に向けた変化を起こすこと、それを「Youth」を中心に据えていくことが推進センターの役割であると改めて認識しています。

## ■ビジョン、ミッション、バリュー

### OUR VISION

# 国際交流を通じて、若者と共により良い世界を作ります

To create a better world together with youth through international exchange

### OUR MISSION

【私たちは以下を提供します】

1. 異文化交流と成長の機会
2. 価値観・人生を変える瞬間
3. 国・文化・地域・世代を超えたネットワーク作りの場

We provide :

1. opportunities for cross-cultural interaction and youth development
2. Life-changing experience
3. networking opportunities beyond borders, cultures and generations

### OUR VALUES

【大切にしていること】

1. 若者の可能性を信じます
2. 多様性を尊重します

We value :

1. believing in youth
2. celebrating diversity

【強み】

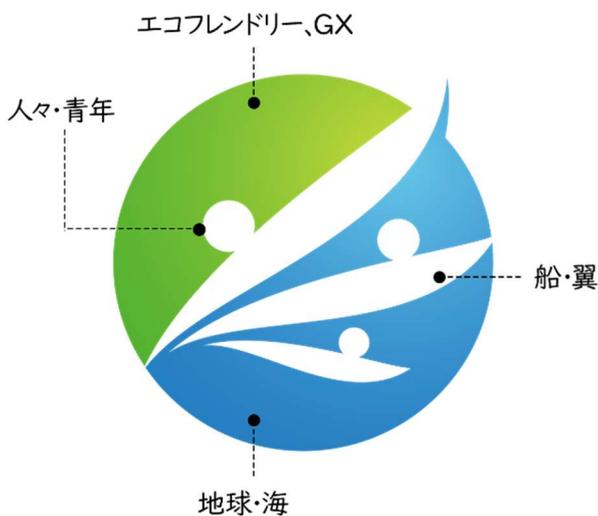
1. 延べ50か国以上・1万人以上が参加した国際交流運営実績
2. 日本と世界に広がるネットワーク
3. 豊富な国際経験と有する専門性の高いスタッフ

Our values: :

1. We have extensive experiences of organizing international exchange programs; the total accumulated number of participants has risen to 10,000+ from over 50 countries.
2. We have local and global networks.
3. We have diverse human resources with a wide range of expertise and professional experience.



## ■ロゴマーク



羽根のデザインは、船や翼を連想させ、私たちの革新力と前進する姿勢を表しています。この形は、力強さと共に、世界をより良い場所にしていくための力を象徴しています。

丸い形は、人々や青年を表し、新しい可能性に満ちた未来を示唆しています。この形は、私たちの活動の中心に人々がいることを強調し、成長と発展を支える重要な要素であることを示しています。

緑色は、エコフレンドリーな取り組みとグリーンTRANSフォーメーション（GX）を示すと共に、持続的な人材育成の生態系（エコシステム）を表しています。

青色は、地球・海そして世界全体を象徴し、我々の事業が地球規模での活動を視野に入れていることを示しています。

これらの要素を組み合わせた CENTERYE のマークは、私たちの理念と未来への挑戦を表現しています。

## 一般財団法人青少年国際交流推進センター 30年の実績

西暦（年度）	内容
平成6年度 (1994)	「設立発起会」を開催、「財団法人青少年国際交流推進センター設立準備委員会を設置（3月28日）
	財団設立の許可が下りる（会長：石川 忠雄、理事長：山田 馨司）（4月21日）
	財団事務局の発足（5月1日）／財団設立を登記する（5月2日）
	第1回理事会において評議員を選出、内部規制を制定する。／設立記念パーティーを開催（5月20日）
	青少年国際交流スタディツアー実施（フィリピン／ブルネイ・シンガポール）
	第1回青少年国際交流全国フォーラム開催（東京都晴海ふ頭「ふじ丸」船上）注1）
	第1回、第2回青少年国際理解セミナー開催
	皇太子同妃両殿下の御成婚記念事業として「国際青年育成交流」事業を総務庁が開始、当センターが契約・実施 国際青年交流会議を総務庁と共催
	SSEAYP インターナショナル第7回総会（日本）関連事業を後援、助成
	機関誌「MACROCOSM」を創刊（年3回発行）
平成7年度 (1995)	青少年国際交流スタディツアー実施（フィリピン／韓国）
	第2回青少年国際交流全国フォーラム開催（大阪府）
	第3回青少年国際理解セミナー開催「激変するアジアの中での日本の在り方について」 講師：猪口 邦子氏（上智大学法学部教授）（4月29日）
	第4回～第6回青少年国際理解セミナー開催
	機関誌「MACROCOSM」を発行（以降、年6回発行）
	年報「International Youth Exchange 1995」を創刊
	「Japanese Youth Today 1995」を発行（～1998）
	日・韓青少年指導者交流（相互交流）を日本青年国際交流機構と共催で実施（～2001）
	「アジア太平洋青年招へい」事業を総務庁が開始、当センターが契約・実施（～2000）
	戦後50年を記念する集いにおける外国人青年招へいを総理府が主催、当センターが契約・実施 （天皇皇后両陛下の御臨席を賜る）
平成8年度 (1996)	青少年国際交流スタディツアー実施（マレーシア、韓国）
	第3回青少年国際交流全国フォーラム開催（宮崎県）
	第7回青少年国際理解セミナー開催「現在の国際社会において日本が考えるべき新たな視点」 講師：猪口 邦子氏（上智大学法学部教授）（4月20日）
	第8回～第11回青少年国際理解セミナー開催
平成9年度 (1997)	青少年国際交流スタディツアー実施（韓国）
	第4回青少年国際交流全国フォーラム開催（福島県）
	第12回青少年国際理解セミナー開催「アメリカの世紀の終わりの始まり～近代社会の終焉の先にあるもの～」 講師：松尾 弑之氏（第7回「世界青年の船」事業団長）（6月14日）
	「中国青少年指導者等招へい事業」を総務庁が主催、当センターが契約・実施 （日中青年国際交流推進会議を開催（石川 忠雄会長の基調講演））
	第13回～第17回青少年国際理解セミナー開催
平成10年度 (1998)	青少年国際交流スタディツアー実施（韓国）
	第5回青少年国際交流全国フォーラム開催（徳島県）
	「東南アジア青年の船」第25回記念事業を総務庁と共催で実施（石川 忠雄会長の基調講演）
	第20回青少年国際理解セミナー開催「地球市民を育てる開発教育～参加型社会を目指すNPOの役割」 講師：田中 治彦氏（立教大学教授）（9月14日）
	第18回～第19回、第21回青少年国際理解セミナー開催
	青少年国際交流スタディツアー実施（韓国）

平成 11 年度 (1999)	第 6 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (岐阜県)
	「日本・中国青年親善交流」事業 (招へい)、「日本・韓国青年親善交流」事業 (招へい)、「東南アジア青年の船」事業、「世界青年の船」事業の国内プログラムを総務庁より当センターが契約・実施
	第 22 回～第 27 回青少年国際理解セミナー開催
	第 28 回青少年国際理解セミナー開催「国際人として…知っておきたい日本の儀礼と作法」 講師：小笠原敬承斎氏(小笠原流礼法宗家) (2000 年 3 月 25 日)
平成 12 年度 (2000)	青少年国際交流スタディツアー実施 (韓国)
	第 7 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (富山県)
	第 29 回青少年国際理解セミナー開催「世界で活躍するために身につけておきたい国際マナー」 講師：司 良介氏 (マナー文化民族評論家) (2001 年 3 月 25 日)
平成 13 年度 (2001)	青少年国際交流スタディツアー実施 (韓国)
	第 8 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (山口県)
	青年国際交流事業の所管が総務庁から内閣府へ移行。当センターの所管が総務庁から内閣府へ移行 「21 世紀ルネサンス青年リーダー招へい」事業を内閣府が開始、当センターが契約・実施 (～2006)
	第 30 回青少年国際理解セミナー開催「旅する自転車、100 万回のありがとう」 講師：坂本 達氏 (株式会社ミキハウス社長室人事勤務、第 18 回「東南アジア青年の船」事業参加青年) (2002 年 3 月 30 日)
平成 14 年度 (2002)	青少年国際交流スタディツアー実施 (韓国)
	第 9 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (神奈川県)
	SSEAYP インターナショナル第 15 回総会 (日本) 関連事業を後援、助成 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」を内閣府が開始、当センターが契約・実施
	第 31 回青少年国際理解セミナー開催「国際交流体験をどう活かすか? ～ワークショップを通じて～」 講師：中野 民夫氏 (ワークショップ企画プロデューサー & 会社員) (2003 年 3 月 30 日)
平成 15 年度 (2003)	「国際青年育成交流」事業(招へい)の一部として「討議セッション」を内閣府が開始、当センターが契約・実施 (～2008)
	第 10 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (兵庫県)
	第 32 回青少年国際理解セミナー開催「ODA50 年～開発援助の原点を考える～」 講師：松本 悟氏 (特定非営利活動法人 メコンウオッチ代表理事) (2004 年 3 月 27 日)
	青少年国際交流スタディツアー(タイ「For Hopeful Children Project」に参加) 開始
平成 16 年度 (2004)	第 11 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (佐賀県)
	国際理解教育支援プログラム開始 (年 6 回程度実施)
	第 33 回青少年国際理解セミナー開催「国際社会における日本の役割について」 講師：猪口 邦子氏 (上智大学法学部教授・前軍縮会議日本政府代表部特命全権大使) (2005 年 3 月 13 日)
平成 17 年度 (2005)	第 12 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (宮城県)
	第 34 回青少年国際理解セミナー開催「人口減少社会を生きるあなたへ～ミレニウム開発目標と日本」 講師：池上 清子氏 (国連人口基金 (UNFPA) 東京事務所所長、第 1 回「東南アジア青年の船」事業参加青年 (2006 年 3 月 21 日)
	上村 知昭理事長の就任 (2006 年 3 月 27 日)
平成 18 年度 (2006)	第 13 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (香川県)
	第 1 回国際交流リーダー養成セミナー開催「もっと楽しく、もっと学べる、もっと出会える国際交流プログラムのために」 (2007 年 3 月 10 日～11 日) 注 2)
平成 19 年度 (2007)	「東南アジア青年の船」事業日本国内プログラムにて日本・ASEAN ユースリーダーズサミット開始、内閣府と共催で実施
	第 14 回青少年国際交流全国フォーラム開催 (愛知県) 日中韓青少年友好会見活動 (中国開催) 日本参加青年の募集・派遣 (外務省と契約)

	第2回国際交流リーダー養成セミナー「もっと楽しく、もっと学べる、もっと出会える国際交流プログラムのために」 (2008年3月22日～23日)
平成20年度 (2008)	内閣府青年国際交流事業50年記念IYEO/CENTERYE共催プログラム「にっぽん丸クルーズ」開催
	JENESYS平成20年度日中韓青少年交流事業(日本開催)の実施
	第15回青少年国際交流全国フォーラム開催(長野県)
	第3回国際交流リーダー養成セミナー「異文化理解促進のためのプログラムづくり～理論、企画・立案、そして実践へ～」 (2009年3月14日～15日)
平成21年度 (2009)	青年国際交流50年既参加青年の集いに協力(天皇后両陛下の行幸啓を賜る)
	第16回青少年国際交流全国フォーラム開催(広島県)
	JENESYS平成21年度日中韓青少年交流事業(韓国派遣)への日本参加者の募集協力
	天皇陛下御在位20年記念 内閣府青年国際交流事業50周年記念 国際青年交流会議を内閣府と共催で実施
	天皇陛下御在位20年記念 日本・ASEANユースリーダーズサミットを内閣府と共催で実施
	事後活動ニュース(年3号発行)編集の開始 ※事後活動ニュースは平成25年度より年2号発行に変更
	第4回国際交流リーダー養成セミナー開催「地域への貢献に取り組む～地域の在住外国人への支援と交流プログラムづくり～」(2010年3月14日～15日)
平成22年度 (2010)	有馬 朗人会長の就任
	第17回青少年国際交流全国フォーラム開催(埼玉県)
	第5回国際交流リーダー養成セミナー中止(東日本大震災のため)
	いばらぎ若者塾事業(茨城県主催)一部の企画(韓国)、実施
平成23年度 (2011)	第18回青少年国際交流全国フォーラム開催(和歌山県)
	第5回国際交流リーダー養成セミナー開催「事業の企画つくりと安全管理～地域の在住外国人との協働プログラムづくり～」(2012年3月24日～25日)
平成24年度 (2012)	SSEAYP国際ショナル設立25周年記念フォーラムを日本青年国際交流機構と共催で実施
	第19回青少年国際交流全国フォーラム開催(沖縄県)
	第6回国際交流リーダー養成セミナー開催「グローバル時代のリーダーシップ～プレゼンテーション能力の向上を目指して～」(2013年3月30日～31日)
平成25年度 (2013)	一般財団法人 青少年国際交流推進センター設立へ移行 【会長(理事)：有馬 朗人、理事長(代表理事)：上村 知昭】
	第20回青少年国際交流全国フォーラム開催(三重県)
	「グローバルリーダー育成事業」を内閣府が開始、当センターが契約・実施
	国際青年育成交流事業第20回記念式典を内閣府と共催で実施
	「東南アジア青年の船」第40回記念式典を内閣府が開催、当センターが実施協力
	JENESYS2.0 日ASEAN 学生会議の主催(ASEAN事務局承認)
平成26年度 (2014)	【会長(理事)：上村 知昭、理事長(代表理事)：川上和久】(2014年10月17日)
	第21回青少年国際交流全国フォーラム開催(北海道)
	平成26年度国際交流リーダー養成セミナー開催「社会で活躍するためのリーダーシップ～自分を磨き、地域への貢献を目指して～」(2015年3月21日)
平成27年度 (2015)	グローバルユースリーダー育成事業「シップ・フォー・ワールド・ユース・リーダーズ」実施・契約
	第22回青少年国際交流全国フォーラム開催(高知県)
	平成27年度国際交流リーダー養成セミナー開催「国際協力の現場でリーダーシップを発揮するには」(2016年3月26日) 「東日本大震災から5年～私たちが忘れてはならない今」(2016年3月27日)
	「迎賓館設立の沿革」リーフレット及び一般参観用掲示パネルの翻訳(中国語・韓国語)を請負う(内閣府迎賓館庶務課の依頼)
	第23回青少年国際交流全国フォーラム開催(新潟県)

平成 28 年度 (2016)	平成 28 年度国際交流リーダー養成セミナー開催「世界の難民事情～私達が今、考え行動すべきこと～」(2017 年 3 月 25 日)
平成 29 年度 (2017)	第 24 回青少年国際交流全国フォーラム開催(岡山県)
	スリランカ地方政府・州評議会省及びアジア開発銀行協働プロジェクト 地方再生に取り組む徳島県神山町への視察団受入
	スリランカ・ウバ州議会政府関係者による「地方政府における透明性と説明責任」をテーマとした東京での視察受入
平成 30 年度 (2018)	平成 28 年度国際交流リーダー養成セミナー開催「Global Citizenship Education 自分の中にあるグローバル・シチズンシップに出会う時間」(2018 年 3 月 18 日)
	ウズベキスタン・スタディツアー実施(ウズベキスタン政府公認旅行会社 LLC の Ulysse Tour の依頼)
	ジョージメイソン大学カリナ・コロステライナ教授及び早稲田大学国際教養学部上杉勇司教授による日韓交流実務関係者聞き取り調査受入
	バーレーン青年スポーツ省等職員訪問団受入
	第 25 回青少年国際交流全国フォーラム開催(千葉県)
	UAE シャルジャ首長国連邦シャルジャ王室シャルジャ働く女性協議会会員訪問団受入
	ドミニカ共和国青年大臣訪問団受入
平成 29 年度国際交流リーダー養成セミナー開催「カードゲームを通して、SDGs を自分事化する」(2019 年 3 月 3 日)	
平成 31 年度 (2019)	2019 ウズベキスタン・スタディツアー実施(第 2 回)
	第 26 回青少年国際交流全国フォーラム開催(京都府)
	国際交流リーダー養成セミナー延期(新型コロナウイルス感染症拡大のため)
令和 2 年度 (2020)	駒形健一理事長の就任(2020 年 3 月 10 日)
	令和 2 年度国際交流リーダー養成セミナー開催(オンライン)「広報のプロフェッショナルが語る発災時のニーズ～災害が起きたとき私たちは地域で暮らす人々や外国人にどう寄り添えるか～」(2020 年 10 月 17 日)
	イスラームを知るオンラインセミナー計 3 回実施(入門編、ハラールフードってなに?日本人ムスリムの生活をのぞいてみよう)
	ローカルアンバサダーシリーズ計 2 回実施(オンライン)(海と森に親しもう!復興のプロセスから自然と人間の共生のありかたを考える(宮城県南三陸町)、北海道胆振東部地震から学ぶレジリエントな地域づくり)
	独立行政法人日本学生支援機構より「トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム」受付センター業務受託
	#せかい部イベント「せかいの“今”を話そう!」運営協力
	第 27 回青少年国際交流全国フォーラム開催(熊本県オンライン)
令和 3 年度 (2021)	令和 3 年度国際交流リーダー養成セミナー開催(オンライン)「伝える・伝わる“やさしい日本語”～おもいやりのコミュニケーションを学ぼう～(2021 年 4 月 24 日)
	イスラームを知ろう!セミナー料理教室計 4 回開催(オンライン、現地開催)
	トビタテ留学 JAPAN 参加高校生によるイベント Let's make Friends Over the World!! 運営サポート
	第 28 回青少年国際交流全国フォーラム開催(山形県オンライン)
令和 4 年度 (2022)	イスラームを知ろう!セミナー計 3 回開催(オンライン、現地開催)
	令和 4 年度国際交流リーダー養成セミナー開催(オンライン)「今こそ“Act Locally” 2023 年は SDGs 目標達成の中間点～7 年間で振り返り気づくこと、これからに向けた取組み:課題解決は地域にあり～(2023 年 3 月 4 日)
	第 29 回青少年国際交流全国フォーラム開催(鹿児島県オンライン)
令和 5 年度 (2023)	イスラームを知ろう!セミナー計 3 回開催(オンライン、現地開催)
	公益財団法人 統計情報研究開発センター主催アセアン・南アジア統計職員招聘事業(石橋信夫記念国際交流事業)の都内及び地方プログラム同行、報告書作成
	「未踏的な地方の若手人材発掘育成支援事業費補助金(AKATSUKI プロジェクト)」採択事業 Social Innovation Program Co-Do(コード)の実施に際し、一般社団法人東海若手起業塾実行委員会の依頼により Social Innovation Program Co-Do Stage02「越境」海外越境プログラムのコーディネート及び関係者の紹介
	第 30 回青少年国際交流全国フォーラム開催(鳥取県)

	令和 5 年度国際交流リーダー養成セミナー開催「グローバルコミュニケーションの未来 ロジカルな対話のすすめ：お互いを認め、異文化理解を促進するために（2023 年 3 月 10 日）」
注 1）	青少年国際交流全国フォーラムは、内閣府の青少年国際交流事業事後活動推進大会と IYEO の全国大会との 3 者共催で実施されるプログラム（2 日間）であり、フォーラムは、第 1 日目のプログラムを示している。
注 2）	平成 6 年度から開始した「青少年国際理解セミナー」には、平成 12 年度までは総務庁青年国際交流事業の帰国報告会が含まれている。平成 18 年度からは名称を「国際交流リーダー養成セミナー」に変更し、1 泊 2 日の国際交流指導者セミナーの位置付けている。
注 3）	マクロズムは令和 2 年度より年 2 号発行に変更。
注 4）	青少年国際交流全国フォーラムは、令和 4 年度より IYEO の全国大会第 2 部との 2 者共催で実施されるプログラムを示している。

## 令和 6 年度事業の概況

### 1. 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力の概況

対面及びオンラインを活用したセミナーを実施

#### A. 青少年国際交流スタディツアーの実施

国際交流活動に関心と意欲のある青少年を各国に派遣し、ホームステイによる交流、訪問国青年との交流や視察・調査等を通じ、青少年国際交流について理解を深めてもらうことを目的として実施している。

#### 「タイ王国・スタディツアー2025」

本年度は、令和 7 年 3 月 17 日（月）～3 月 25 日（火）の 8 泊 9 日の日程で「タイ王国・スタディツアー2025」を実施し、大学生及び社会人を含む参加者 10 名と同行職員 2 名の合計 12 名が参加した。

このスタディツアーは、タイの児童養護施設 3 か所を訪れ子どもたちの生活環境を知ることと、現地で行われる子供キャンプ「For Hopeful Children Project (FHCP) 2024」にボランティア・スタッフとして参加し、現地の実行委員と協働することを組み合わせた、（一財）青少年国際交流推進センター独自のプログラムである。子どもたちとは、生活や活動を通じてコミュニケーションを深めた。

FHCP は、「東南アジア青年の船」事業タイ既参加青年 ウィスイット・デッカムトーン氏（Mr. Visit Dejkumtorn）が、自身のネットワークをいかして 1991 年に始め 30 年以上にわたり継続している慈善事業で、孤児や難民、障がいを持っているなど社会的に恵まれない状況にある子どもを、「希望あふれる子どもたち（Hopeful Children）」と呼んでいる。今回は、約 800 名の「希望あふれる子どもたち」をタイ王国海軍施設に招き、海水浴やさまざまなアクティビティを行った。参加者は、FHCP のボランティア・スタッフ約 100 名と共に運営に参加し、子どもと共に生活・活動することを通じて、国際協力活動を実践し、国際協調の精神を養った。FHCP 前には、彼らが生活する児童養護施設 3 か所を訪問し、子どもたちがおかれている状況について理解を深めた。

日程	活動	宿泊
3 月 17 日（月）	バンコク集合・準備研修	バンコク
3 月 18 日（火）～ 19 日（水）	児童養護施設に宿泊、ボランティア活動や川遊びを体験	カーンチャナブリー県
3 月 20 日（木）	バンコク郊外の児童養護施設を訪問	バンコク
3 月 21 日（金）～ 24 日（月）	子どもキャンプ FHCP に参加し現地ボランティア・スタッフと協働	チョンブリー県
3 月 25 日（火）	バンコクにて解散	



(左) カンチャナブリー県の児童養護施設で子どもたちとソーラン節を踊る  
 (中) カンチャナブリー県の児童養護施設で子どもたちと縄跳びで遊ぶ  
 (右) 子どもキャンプ FHCP で子供たちと海水浴をする

## B. 国際交流リーダー養成セミナーの実施

### B-1 国際交流リーダー養成セミナーの実施

テーマ：日英通訳者が日々実践！語学力向上メソッドを叩き込む～国際社会で活躍できる人材になるために～

主催：一般財団法人青少年国際交流推進センター

共催：株式会社リーズ・トランサポート

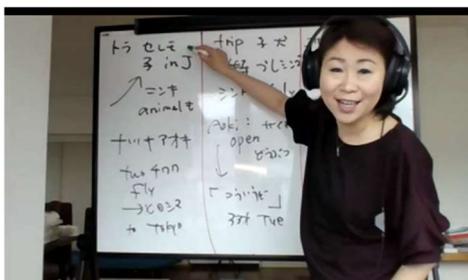
協力：日本青年国際交流機構（IYEO）

日時：令和6年4月27日（土）9：30～12：45

講師：IT・エグゼクティブ向け同時通訳、株式会社リーズ・トランサポート代表 莉々紀子氏

参加者：38名

内容：通訳の訓練は集中力や記憶力の強化、および即時反応にも効果があるということ、莉々氏の体験を通して説明があった後、莉々氏が通訳者として日々どのようなトレーニングを行っているかが紹介され、それを実践する時間が設けられた。具体的にはクイックレスポンス、シャドーイング、リピーティング、ノートテイキング等。参加者は講師の訓練の様子を見た後、マイクをオンにしてそれぞれが実践し、各自の英語学習をどのように行うかイメージできた。グローバルコミュニケーションについて、主にハイコンテキストとローコンテキストに関する話がされ、英語など語学はあくまでもコミュニケーションのツールであることを理解し、言語の背景にある文化や慣習に基づく価値観や考え方を知らうとすることがコミュニケーションに不可欠であると再確認できた。



メモりの様子を実際に見ることでコツをつかむ



講師の莉々氏と参加者との集合写真

### B-2「イスラームを知ろう！」の実施

一般財団法人青少年国際交流推進センターは、2020年以降、多様性の理解を促進するための一助として「イスラームを知ろう！」という名称で各種セミナー・イベント（有識者による講義・料理教室等）を15回実施し、参加者数は累積380名超となっている。

**【第14回】令和6年6月22日（土）15:00～17:00**

イスラームを知ろう！～となりのムスリム：25周年を迎えたマスジド大塚のこれまでとこれから「モスク/炊き出し見学」～【現地集合（東京都）】

共催：日本イスラーム文化センター / マスジド大塚

協力：日本青年国際交流機構（IYEO）

スピーカー：クレイシ・ハールーン 日本イスラーム文化センター事務局長

参加者：15名



**【第15回】令和6年7月28日（日）10:00～13:30**

イスラームを知ろう！～ハラールフード料理教室（マハシー）～【現地参加（東京都）】

共催：Nashmi.JP、ボーダレスハウス株式会社

協力：日本青年国際交流機構（IYEO）

参加者：11名



**イスラームを知ろう！～UAE 現地体験モニターツアー～**

上記「イスラーム知ろう！」セミナー・イベント既参加者からの「現地体験型プログラムの実施要望」を受け、令和7年度からのスタディツアーの本格実施に向け、令和6年5月3日（金）～5月8日（水）に一般参加者4名と同行職員2名によるモニターツアーを実施した。本ツアーは、推進センターと内閣府青年国際交流事業の既参加青年であり著名な作家である在アラブ首長国連邦（UAE）のハムダなおこ氏（日本UAE文化センター代表）と共同企画し、現地旅行社（Zanobia Tourism社）により催行した。ハムダなおこ氏による詳細説明、同氏が運営する日本UAE文化センター日本語学習生徒との交流、家庭訪問、「世界青年の船」既参加青年との交流、ドバイ女性協会でのセミナーに加え、宇宙航空局、デーツ農園、大統領迎賓館等各種文化施設の訪問や見学をし、参加者の満足度も非常に高いものとなった。帰国後、6月26日にオンライン報告会を実施した。



左上から時計回りに、アブラハムファミリーハウス訪問、アブダビのシェイク・ザイド・グランドモスク、イスラーム文明科学博物館見学、歓迎夕食会で地元青年と交流、ホームビジットの様子

**C. 国際理解教育支援プログラムの実施**

内閣府青年国際交流事業既参加者等の在日外国青年及び内閣府青年国際交流事業に参加し、事

後活動として国際理解教育に熱意を有する者を日本の学校等に派遣して、国際理解の推進に資することを目的として実施している。

**【第1回】令和6年10月18日 茨城県立水戸高等特別支援学校**

高校3年生（48名）を対象に、中国・台湾に詳しい日本人講師1名を派遣。修学旅行事前授業として台湾文化の理解を目的に、中国語（台湾華語）と台湾語の違い、台湾の食文化と信仰を紹介し、「竹筍竹筍冒出来」ゲームを生徒と一緒にやった。



**【第2回】令和6年10月26日 茨城県立並木中等教育学校**

5学年（高校2年生、約150名）を対象に、ファシリテーター1名とディスカッション・パートナー8名（アルジェリア、オーストラリア、ブラジル、チリ、インドネシア、シンガポール、スリランカ、ウガンダ）を派遣。1クラスを八つのグループに分け、各グループで自己紹介し、八つのディスカッション・トピックに沿った各国事情を生徒が外国人ディスカッション・パートナーに質問した後、生徒から日本事情をプレゼンテーションした。その後、ディスカッション・パートナーから生徒へフィードバックを行った。

**【第3回】令和6年10月29日 品川区立清水台小学校**

4,5年生（73名）を対象に外国人講師4名（韓国、ミャンマー、スリランカ、タイ）を派遣。外国人講師から自国の基本情報・伝統衣装・食文化・挨拶の言葉の紹介をした後、質疑応答。外国人講師の国の遊びや踊りを児童と一緒にやった。



**【第4回】令和7年1月10日 中野区立江古田小学校**

6年生（90名）を対象に外国人講師2名（エジプト、スペイン）を派遣。外国人講師から自国の基本情報・伝統衣装・食文化・挨拶の言葉の紹介をした後、質疑応答。児童から日本の遊びを紹介され、一緒に遊びながら交流した。



**【第5回】令和7年1月17日 東京都立立川国際中等教育学校附属小学校**

1,2,3年生（205名）を対象に、外国人講師（ミャンマー、スリランカ）2名を派遣。外国人講師の国の紹介（位置、世界遺産、食べ物、民族衣装など）の後、外国人講師の国の踊りを児童と一緒にやった。

## 2. 内閣府等の実施する青年国際交流事業への協力

令和6年度「国際社会青年育成事業」、「日本・中国青年親善交流事業」、「日本・韓国青年親善交流事業」、「東南アジア青年の船」事業、「世界青年の船」事業に関する支援業務を内閣府との契約により実施した。

また、内閣府青年国際交流事業の既参加青年の活動を支援する「令和6年度青少年国際交流事業の活動充実強化における支援業務」についても内閣府と契約をし、青少年国際交流事業事後活動推進大会等の開催を行った。

## A. 内閣府の実施する青年国際交流事業への協力

### (1) 国際社会青年育成事業

#### (a) 日本青年海外派遣

団長、副団長を含む日本参加青年等 27 名が、ドミニカ共和国、モロッコ王国の 2 地域に分かれ、令和 6 年 9 月 21 日～9 月 30 日まで派遣されることに伴い、日本国内での研修、諸準備のほか、訪問国活動のプログラム調整、渉外としての随行等を行った。

項目	内容	月日
研修	日本参加青年に対し、研修を下記のとおり行った。	
	事前研修	
	合宿形式	7月3日～6日
	オンライン形式	7月14日、8月3日
	出発前研修	9月19日～20日
	帰国後研修	10月4日～5日
訪問国活動	訪問国活動の実施に当たっては、訪問国政府機関及び日本国大使館の協力をいただきつつ、渉外として随行した当センター職員が訪問国活動の調整をした。	9月21日～ 9月30日
外国招へい 青年との交流	オンラインプレ会議（各団1日間）	9月7日、8日
	国際青年交流会議	10月1日～3日
事業評価 アンケート	団長、副団長、日本参加青年に対し、事業評価アンケートを作成、実施及び集計をした。	10月4日
事業報告会	令和6年度国際社会青年育成事業に参加した青年が、事業に参加して得た知識や経験等について国際交流に関心のある一般の青少年等に向けてオンラインによる報告を行った。当該事業に参加した青年は実行委員会を組織し、報告会の運営に携わった。当日は約80名が参加した。	2月8日

#### 主な訪問国活動について

##### (i) ドミニカ共和国

テーマ：「水と防災」

項目	内容
表敬訪問	Calros J. Valdez Matos 青年大臣、高木昌弘駐ドミニカ共和国日本国特命全権大使を表敬訪問した。
国内施設訪問	バルデシアダム、緊急事態センター（COE）、水資源庁（INDRHI）、サントドミンゴ自治大学（UASD）を訪問した。
日本関連施設	日本人農業移民記念碑、JICA ドミニカ共和国事務所を訪問した。
現地青年等とのディスカッション	サントドミンゴ自治大学（UASD）において、Rocio Billini 学術交流部長をファシリテーターとして、気候変動（水と防災）をテーマに同大学の学生とディスカッションを行った。
ホームステイ	サントドミンゴにて1泊2日のホームステイを実施した。

(ii)モロッコ王国

テーマ：「再生可能エネルギー」

項目	内容
表敬訪問	高等教育・科学研究・イノベーション省、倉光秀彰駐モロッコ王国日本国特命全権大使を表敬訪問した。
国内施設訪問	エネルギー移行・持続可能開発省、持続可能エネルギー庁、モハメッド6世工科大学、モハメッド6世水文明博物館、アガディール・イブン・ソホル大学等を訪問した。
テーマに関する学び	モハメッド6世工科大学博士課程学生によるポスターセッションを通じて、「再生可能エネルギー」について学んだ。
ホームステイ	アガディールにて、1泊2日のホームステイを実施した。



サントミンゴ自治大学での文化交流（ドミニカ共和国派遣団）



アガディール・イブン・ソホル大学にて大学関係者とともに（モロッコ王国派遣団）

(b)外国青年招へい

ドミニカ共和国（8名）、ジャマイカ（8名）、モロッコ王国（8名）、スペイン王国（8名）の4か国からの外国参加青年等32名の日本国内プログラムを令和6年9月25日～10月5日に、東京都および沖縄県、愛知県で実施した。

(i)東京プログラム

項目	内容	月日
評価会、修了式	プログラム終了にあたり、評価会及び修了式を行った。	10月4日
事業評価アンケート	外国参加青年に対する事業評価アンケートを作成、実施及び集計をした。	10月4日

(ii)地方プログラム

項目	内容	月日
受入県会議	地方プログラムの訪問県の担当者及び受入実行委員会の代表者と地方プログラムを実施するための会議をオンラインで実施した。	6月24日
地方プログラム	ドミニカ共和国とジャマイカの青年は沖縄県を、モロッコ王国とスペイン王国の青年は愛知県をそれぞれ訪問した。訪問中には文化体験やホームステイ（2泊3日）、地元青年とのディスカッションプログラムを実施した。プログラムの実施に当たっては、それぞれの県庁、日本青年国際交流機構並びに各地域の関係団体の協力を得て、その地域の特性をいかした内容で実施した。	9月26日～30日



トヨタ産業技術記念館で日本の産業史を学ぶ（愛知県）



地元青年とのディスカッション（沖縄県）

(c)国際青年交流会議

令和6年10月1日～3日、「国際青年交流会議」が開催され、国際社会青年育成事業の日本及び外国参加青年55名は「再生可能エネルギー」、「水と防災」の2テーマに分かれ、各コースのファシリテーターの進行のもと、それぞれディスカッションを行った。また、10月2日には天皇皇后両陛下の行幸啓を賜った。

項目	内容	月日
テーマ別視察及びディスカッション	日本及び外国参加青年は、以下のテーマごとに視察及びディスカッションを行った。	10月1日～3日
	再生可能エネルギー 視察先：資源エネルギー庁、積水化学実証実験サイト、イベルドローラ・リニューアブルズ・ジャパン	
	水と防災 視察先：気象庁、東京都水道歴史館	
行幸啓	天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り、青年によるディスカッションをご視察いただくとともに、青年代表とご懇談された。	10月2日
文化交流レセプション	文化交流レセプションを、ホテルニューオータニ東京において開催した。	10月2日
成果発表会	全参加青年は2泊3日のディスカッションのまとめとして成果発表会を都市センターホテルにて行い、各テーマの成果を全員で共有した。	10月3日



国際青年交流会議、文化交流レセプションでの参加青年集合写真

(d) 報告書等

項目	内容
報告書	内閣府青年国際交流事業報告書 2024 国際社会青年育成事業(日本青年外国派遣)の編集、印刷及び発送を行った。
	内閣府青年国際交流事業報告書 2024 国際社会青年育成事業(外国青年招へい)(和・英併記)の編集、印刷及び発送を行った。
レポート集	2024 年度国際社会青年育成事業 (日本青年外国派遣) 参加者レポート集の編集、印刷及び発送を行った。

(2) 日本・中国青年親善交流事業

<目的>

本事業は、日本と中国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

<実施概要>

令和 6 年度事業は、東京都及び茨城県で実施される東京フォーラムと、中国の北京市及び張家口市で実施される北京フォーラムの二つのフォーラムが、「気候変動・環境」、「地方創生」、「少子高齢化」の 3 つをテーマとして実施された。日本青年代表団と中国青年代表団は両フォーラムの期間中に行動し、交流を深めた。

(a) 第 42 回日本青年中国派遣

団長、副団長、渉外を含む日本参加青年等 20 名が東京フォーラム（令和 6 年 11 月 19 日～11 月 23 日）、及び北京フォーラム（令和 6 年 11 月 24 日～11 月 28 日）に参加することに伴い、日本国内での研修、東京フォーラム実施に関する諸準備のほか、内閣府の行う北京フォーラムのプログラム調整に際し、必要な情報提供及び支援を行った。

項目	内容	月日
団長・副団長・渉外会議	日本・中国青年親善交流事業の団長・副団長・渉外会議を実施した。	6月20日
研修	日本参加青年に対し、研修を下記のとおり行った。	
	事前研修	
	合宿形式	7月3日～6日
	オンライン形式	7月13日、7月28日
	出発前研修	11月17日～18日
	帰国後研修	11月29日～30日
事業報告会	令和6年度日本・中国青年親善交流事業（第42回）に参加した青年が、事業に参加して得た知識や経験等について国際交流に関心がある一般の青少年等に向けてオンラインで報告を行った。当該事業に参加した青年のうち有志5名によって実行委員会が組織され、報告会の企画及び運営に携わった。当日は約60名が参加した。	令和7年2月16日

(b) 東京フォーラム

団長、副団長、渉外を含む日本代表青年団 20 名と、団長、秘書長を含む中国青年代表団 20 名が東京フォーラム（令和 6 年 11 月 19 日～11 月 23 日）に参加する事に伴い、諸手配並びにフォーラム本番でのプログラム運営支援を行った。

項目	内容	月日
東京都プログラム	両国代表青年団はテーマに関する官庁訪問、ディスカッションを行った。訪問先：環境省、こども家庭庁	11 月 19 日～21 日
表敬訪問	中国青年代表団の団長、秘書長と青年代表は、ホテルニューオータニで由布和嘉子内閣府大臣官房審議官へ表敬訪問を行った。	11 月 19 日
歓迎会	由布大臣官房審議官主催歓迎会がホテルニューオータニで開催され、日本青年代表団も参加して中国青年代表団を歓迎した。	11 月 19 日
成果発表会	両国青年は、成果発表会にてディスカッションの内容を発表し、互いに成果を共有した。	11 月 21 日
茨城県プログラム	両国代表青年団は茨城県の水戸市、並びにつくば市を訪問した。	11 月 22 日～23 日
表敬訪問	両国代表青年団は大井川和彦茨城県知事へ表敬訪問した。大井川知事からは茨城県と中国の関係に関するお話を頂いた。	11 月 22 日
施設訪問	つくば市役所、カスミフードスクエア、サイバーダイナミクスを訪問し「地方創生」テーマに関して学んだ	11 月 22 日～23 日
歓迎会	茨城県青年国際交流機構による歓迎会が開催され、両国青年代表団が参加した。来賓として、市村茨城県こども政策局長、河津茨城県日中友好協会会長が臨席された。	11 月 22 日



両国青年で通訳を交えディスカッション



東京での歓迎会



大井川茨城県知事への表敬訪問

(c) 北京フォーラム

団長、副団長、渉外を含む日本代表青年団 20 名は、令和 6 年 11 月 24 日～11 月 28 日の日程で北京フォーラムに参加した。

項目	内容	月日
表敬訪問	中華全国青年連合会の董霞副秘書長へ表敬訪問を行った。	11月25日
日本大使館訪問	金杉憲治駐中華人民共和国日本国特命全権大使へ表敬訪問を行った。	11月25日
施設訪問	オリンピック選手村、風力・太陽光発電モデルプロジェクト、天安門・故宮等を訪問した。	11月25日～28日
歓迎会・成果発表会	北京フォーラム中各地で現地青年との対話会・座談会を実施し、その成果発表会、並びに歓迎会が中央民族大学で開催された。	11月27日



北京市内視察で博物館を訪問



日中青年対話会



中央民族大学での歓迎会・成果発表会

#### (d)報告書等

項目	内容
事業評価アンケート	日本参加青年並びに中国参加青年に対し、事業評価アンケートを作成、実施及び翻訳、集計をした。
報告書	『内閣府青年国際交流事業報告書 2024 第42回日本・中国青年親善交流事業』の編集、印刷及び発送を行った。
参加者レポート集	『2024年度 第42回日本・中国青年親善交流事業（日本青年中国派遣）参加者レポート集』の編集、印刷及び発送を行った。

### (3) 日本・韓国青年親善交流事業

#### <目的>

本事業は、日本と韓国の青年の交流を通じて、青年相互の友好と理解を促進し、日本青年の国際的視野を広げ、国際協調の精神の醸成と国際協力の実践力を向上させることにより、国際社会で指導性を発揮できる青年を育成するとともに、青年による青少年健全育成活動等の社会貢献活動への寄与を目的としている。

#### <実施概要>

##### (a) 日本青年韓国派遣

韓国に、団長、副団長、渉外を含む日本参加青年 25 名が令和 6 年 11 月 22 日から 11 月 30 日まで派遣されることに伴い、日本国内での研修、諸準備のほか、内閣府の行う派遣国活動のプログラム調整に際し、必要な情報提供及び支援を行った。

項目	内容	月日
団長・副団長・ 渉外会議	日本・韓国青年親善交流事業の団長・副団長・渉外会議を実施した。このほか、日本国内の研修の際に同会議を適宜開催した。	7月17日
研修	日本参加青年に対し、研修を下記のとおり行った。	
	事前研修	
	合宿形式	8月14日～17日
	オンライン形式	8月24日、10月19日
	出発前研修	11月20日～21日
帰国後研修	12月1日～2日	
日本青年韓国 派遣の訪問国 活動に関する支 援業務等	(i) 内閣府が韓国政府機関等及び日本国大使館と行う日程協議に際し、訪問先や日本参加青年の要望に関する情報提供等の支援業務を行った。 (ii) 韓国語による派遣活動日程最終案を和訳して資料を作成し、日本参加青年及び内閣府等に配布した。 (iii) 日本参加青年の急病等不測の事態が生じた場合にその対応について内閣府に協力することとした。	派遣国活動： 11月22日～30日
事業評価 アンケート	帰国後の団長、副団長、渉外及び日本参加青年に対し、事業評価アンケートを作成、実施及び集計をした。	回収期間： 12月2日～4日
事業報告会	第35回日本・韓国青年親善交流事業に参加した青年が、事業に参加して得た知識や経験等について国際交流に関心がある一般の青少年等に向けてオンラインで報告を行った。当該事業に参加した青年のうち有志4名によって実行委員会が組織され、報告会の企画及び運営に携わった。当日は約80名が参加した。	令和7年2月16日



韓国文化院を訪問（事前研修）



韓国女性家族部を表敬訪問（派遣国活動）



韓国青年とディスカッション（派遣国活動）

## (b) 韓国青年日本招へい

韓国25名の日本国内プログラムを令和6年11月1日から11月9日までの9日間、東京都、広島県及び徳島県で実施した。

### (i) 東京プログラム

項目	内容	月日
表敬訪問	韓国青年は由布和嘉子内閣府青年国際交流担当室長を表敬訪問し、プログラムへの期待等に関する質問を受けた。	11月1日
在京大韓民国大使館表敬訪問	在京大韓民国大使館を表敬訪問し、大使館歴史室（東鳴室）の案内、リュウ・ドンヒョン参事官による日韓協力の重要性についての講話を受けた。	11月1日
歓迎会	由布和嘉子内閣府青年国際交流担当室長主催による歓迎会が開催された。韓国青年は、内閣府幹部を始め、在京大韓民国大使館関係者、令和6年度日本青年韓国派遣団等多くの出席者の前で、文化紹介としてダンスや歌等を披露した。	11月1日
事業評価アンケート	帰国後の韓国参加青年に対し、事業評価アンケートを作成、実施及び集計をした。	11月14日 ～1月11日

(ii) 日韓青年親善交流のつどい

項目	内容	月日
日韓青年親善交流のつどい	<p>東京都にある都市センターホテルにおいて、日韓青年親善交流のつどいを開催した。参加者は、韓国青年代表団、内閣府青年国際交流事業既参加青年及び一般参加青年からなる日本参加青年と日韓青年親善交流のつどい実行委員の約60名であった。</p> <p>本年度は「真ん中でマンナルカ」というテーマを設定した。「マンナルカ」は韓国語で「会おうか」という意味で、日韓青年親善交流のつどいを参加者の「真ん中」と位置づけ、この「真ん中」での出会いが未来につながってほしいという思いを込めた。</p> <p>プログラムは、実行委員が企画したディスカッションや日韓文化交流のタペ等で構成された。ディスカッションでは、五つのテーマに分かれ、それぞれ両国の現状や問題点、解決方法等を意見交換した。日韓文化交流のタペでは、両国の青年がプレゼンテーションやダンスパフォーマンス等を行い、互いの文化に触れる機会になった。</p> <p>日韓両国の青年たちは、このような様々な活動を通じて互いに友好と理解を深めた。</p>	11月2日 ～3日

(iii) 地方プログラム

項目	内容	月日
受入県会議	地方プログラムの訪問県、担当者及び実行委員会の代表者と地方プログラムを実施するための会議をオンラインで実施した。	7月24日
地方プログラム	広島県及び徳島県の両県で行った。訪問県、日本青年国際交流機構並びに関係団体の協力を得て、広島県では地元青年とのディスカッションや施設訪問、徳島県ではホームステイを中心にプログラムが生まれ、各地	11月3日 ～9日

	域の特色を存分に感じられる内容であった。	
--	----------------------	--



参加者全員で記念撮影  
(日韓親善交流のつどい)



地元青年とディスカッション  
(地方プログラム)



阿波おどりを体験 (地方プログラム)

(b) 報告書等

項目	内容
報告書	『内閣府青年国際交流事業報告書 2024 第 35 回日本・韓国青年親善交流事業』の編集、印刷及び発送を行った。
参加者レポート集	『2024 年度 (第 35 回) 日本・韓国青年親善交流事業 (日本青年韓国派遣) 参加者レポート集』の編集、印刷及び発送を行った。

(4) 第 48 回「東南アジア青年の船」事業

<目的>

本事業は、日本及び東南アジア諸国連合の青年が、各種の交流活動を行うことにより、青年相互の友好と理解の促進、青年の国際的視野の拡大、国際協調精神の醸成及び国際協力における実践力の向上を図り、もって国際化の進展する社会の各分野で指導性を発揮することができる次世代リーダーを育成することを目的としている。

令和 6 年度は、令和元年度以来初の海外航路での船の運航を再開するとともに、船上及び訪問国において各種の交流活動を実施した。

<実施概要>

(a) 参加者人数

日本	ナショナル・リーダー 1 名、参加青年 20 名
ASEAN 9 か国	ナショナル・リーダー各国 1 名、参加青年各国 15 名 (ブルネイ・ダルサラーム国、カンボジア王国、インドネシア共和国、ラオス人民民主共和国、マレーシア、フィリピン共和国、シンガポール共和国、タイ王国、ベトナム社会主義共和国) 合計 99 名
オブザーバー参加	ナショナル・リーダー 1 名、参加青年 2 名 (東ティモール民主共和国)

(b) 事業日程

日本参加青年事前研修	8月2日～6日
オンラインプレ会議 (開会、NL セッション、DG セッション、SG セッション)	10月20日
日本参加青年出航前研修	11月1日～4日

対面交流	11月4日～12月11日
日本参加青年帰国後研修	12月11日～12日
「東南アジア青年の船」事業報告会	令和7年2月9日

(c) 対面交流プログラム内容

①日本国内活動 1

課題別視察	ディスカッション・テーマに沿った関連施設への訪問を通し、日本の事例を学び、テーマに対する知見を深めた。
-------	---

②船内活動

ディスカッション活動	日 ASEAN 友好協力に関する共同ビジョン・ステートメント 2023 実施計画（2023年12月17日）にて各国首脳が合意した事項を基に、6つのディスカッション・テーマを設けた。 1. ソフト・パワーと青年の民間外交 2. 経済成長と持続可能な社会 3. 地球環境と気候変動 4. 防災と復興 5. 健康とウェルビーイング 6. デジタル社会 参加青年はテーマごとにグループに分かれて、ファシリテーターの指導の下、ディスカッションを行った。
事後活動セッション	ディスカッション活動の成果を活かし、事後活動への積極的な参加の促進、事後活動組織のネットワーク強化等を目的として実施した。
ピア・ラーニング・セミナー（PLセミナー）	PL セミナーは、参加青年がこれまで勉強してきたこと又は経験してきたこと等について比較的少人数の仲間と共有又は議論する活動として実施した。参加青年は、PL セミナー 6 セッションの全てに、主催者又は参加者として、それぞれ一つずつの PL セミナーに参加した。
ソリダリティー・グループ（SG）活動	PY 相互の理解と友情を深めることを目的とした活動であり、主に SG 対抗や全員参加形式のレクリエーションを行った。
ナショナル・プレゼンテーション	PY が音楽・舞踊・劇・説明・ビデオ等を用いて、自国の文化・伝統・歴史・国民性・現在の青年を取り巻く環境等を紹介することにより、参加各国についての理解を深めること等を目的として実施した。

③訪問国活動

ベトナム社会主義共和国	参加青年は、歓迎式やホーチミン像への献花式のほか、ナショナル・リーダーはホーチミン市人民委員長を表敬訪問した。また、各ディスカッション・テーマに関連した複数の大学におけるワークショップ等に参加したほか、一般家庭でのホームステイを体験した。
インドネシア共和国	参加青年は、インドネシア青年スポーツ省や ASEAN 事務局を表敬訪問し

	た。また、各ディスカッション・テーマに関連した政府機関や企業等を訪問したほか、一般家庭でのホームステイを体験した。
--	---



ホーチミン大統領記念像への献花



インドネシアでホストファミリーと対面



ナショナル・プレゼンテーション

#### ④日本国内活動 2

参加者代表者による内閣府総理大臣表敬訪問	
サマリー・フォーラム	事業から得られた成果について、グループ・ディスカッションの学びとコミットメントを報告した。
地方プログラム	全国 5 県市（奈良県、高知県、熊本県、北九州市、函館市）のうち、SG ごとに 1 カ所を訪問し、ホームステイや地元青年との交流を通じて、地方の理解に繋げた。
参加者代表者による秋篠宮佳子内親王殿下御引見	
解散式、解散交歓会	

#### (d) 報告書

内閣府青年国際交流事業報告書 2024 令和 6 年度「東南アジア青年の船」事業の編集（日本語・英語）、印刷及び発送を行った。



船上での参加青年集合写真

### (5) 「世界青年の船」事業

#### <目的>

現在、あらゆる分野で国境を越えた協力・調整・交渉が不可欠となっており、その対応を牽引・指導する次世代

リーダーが求められている。こうした観点から、「世界青年の船」事業は、世界各地から集まった参加青年に、ディスカッションや参加青年主体のワークショップ、文化交流を通して、異文化対応力、コミュニケーション力、リーダーシップ、マネジメント力などを向上させる機会を提供するとともに、国境を越えた強い人的ネットワークの構築を図ることを目的として実施されている。

## <実施概要>

### (a) 参加国・参加者数

参加国	アルジェリア民主人民共和国、オーストラリア、ブラジル連邦共和国、ジブチ共和国、エジプト・アラブ共和国、日本、オマーン国、パナマ共和国、ペルー共和国、ポーランド共和国、セネガル共和国、スリランカ民主社会主義共和国、スウェーデン王国	
参加者数	日本	ナショナル・リーダー（NL）1名、サブ・ナショナル・リーダー（SNL）1名 参加青年（PY）77名
	日本以外の各国	ナショナル・リーダー（NL）12名（各国1名） 参加青年（PY）95名（各国約8名）

### (b) 事業日程

日本参加青年事前研修	9月11日～9月15日
オンライン準備会合	12月7日
対面交流	令和7年1月24日～2月21日
日本参加青年事後研修	令和7年2月21日～22日

### (c) 対面交流プログラム内容

#### ①中央プログラム

参加者代表者による内閣府総理大臣表敬訪問
参加者代表者による秋篠宮佳子内親王殿下御引見
都内視察

#### ②船上プログラム

コース・ディスカッション（CD）	多くの国が直面している共通の課題に関するアカデミックな8つのテーマに分かれて、ファシリテーターの指導の下、ディスカッションを行った。 CD-1：地域資源を利用したコミュニティ・デザイン CD-2：伝統文化の継承 CD-3：質の高い教育 CD-4：環境保全 CD-5：海外からの移住者との共生 CD-6：地域資源を利用した観光促進 CD-7：郊外地域における若者の活躍促進 CD-8：質の高い福祉
ナショナル・プレゼンテーション	参加国ごとに、自国の歴史、文化、伝統芸能そして政治や経済等の社会全

	般について紹介することで、参加青年が相互に各国について理解を深めるとともに、参加青年がナショナル・プレゼンテーションの準備を通じて自国の特徴について再認識することを目的として実施された。
ピア・ラーニング・セミナー	参加青年が主催するセミナーで、主催者自身の学習分野や経験を参加青年と共有し、議論する活動として、実施された。全参加青年はピア・ラーニング・セミナーの各コマにおいて、主催者あるいは参加者となり、参加者は当日参加したいセミナーに自由に参加することができた。
All-PY セミナー	全参加青年が一堂に会するセミナーで、委員会主導で二度開催された。 1：リーダーシップセミナー 2：異文化理解セミナー
事後活動セッション	日本青年国際交流機構（IYEO）の代表として3名が、3回の事後活動セッション、及びその他の事後活動促進に繋がる自主活動の担当として派遣された。参加青年は事後活動セッションを通じて、下船後の社会貢献活動のアイデアの企画、共有等を行った。
サマリー・フォーラム	事業から得られた成果について、主にコース・ディスカッションの学びとコミットメントを報告した。

### ③地域訪問活動

静岡県	表敬訪問、施設訪問、視察、文化体験及び地域青年との交流等を行った。
-----	-----------------------------------

### ④地域実践活動

島根県	船上でそれぞれのコース・ディスカッションのテーマとして設定された社会課題について議論し、知見を深めた参加青年たちが、島根県で実際に社会課題の解決について取り組む地域の人々との協働を通じて、社会課題の解決法について考える活動として実施された。
-----	--



循環型農業について説明を聴く（静岡）



小型たたら製鉄の操業体験（島根）



ナショナル・プレゼンテーション

### (d) 報告書

「内閣府青年国際交流事業 令和6年度「世界青年の船」事業 報告書」（日本語・英語）の編集を行った。



船上での参加青年集合写真

### (6) 青少年国際交流事業の活動充実強化における支援業務

(a) 青少年国際交流を通して国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい（ブロックイベント）の開催

全国の4ブロックにおいて、内閣府及び地方公共団体が行う青少年国際交流事業の既参加青年、国際交流に関心のある青少年等が、事後活動に関する情報交換や地域、職域の特色をいかした事後活動について意見交換を行うことにより、地域における既参加青年等のネットワークを強化し、国際交流活動や青少年の育成活動を活性化させることを目的に、令和6年度は次のとおり開催した。

ブロック	開催県	内容	日付
四国ブロック	香川県	ハイブリッド	令和6年9月7日
関東ブロック(全国大会)	山梨県	ハイブリッド	令和6年11月9日、10日
近畿ブロック	兵庫県	対面	令和7年1月18日
北信越ブロック	長野県	対面	令和7年3月2日

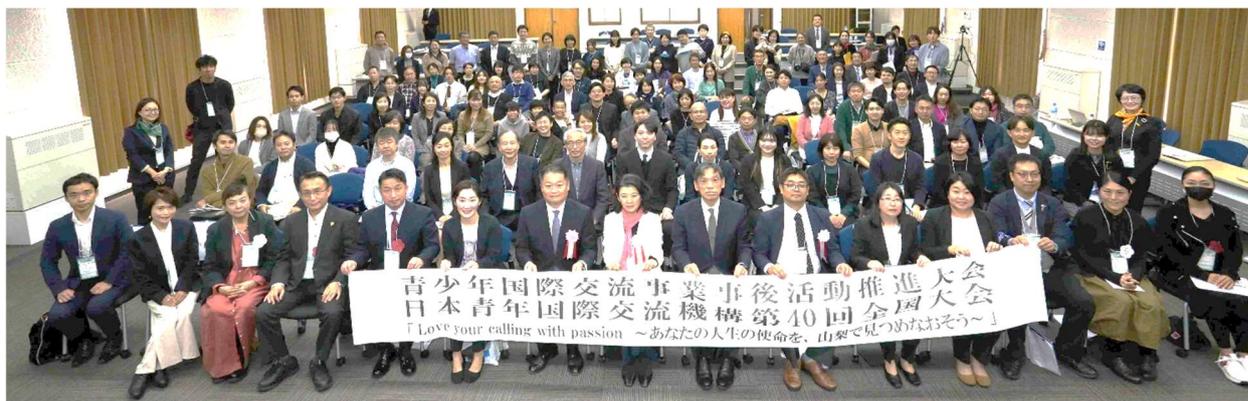


ブロックイベントでのパネルディスカッションや分科会の様子

(b) 青少年国際交流事業事後活動推進大会の開催

全国から内閣府及び地方公共団体等が行う青少年国際交流事業の既参加青年等が集まり、各地域における事後活動の推進状況を報告するとともに、既参加青年等の全国的なネットワークの構築など事後活動を更に充実させるための方策について積極的に意見交換を行うものである。

大会	内容	日付
青少年国際交流事業 事後活動推進大会	既参加青年相互の交流と研さんを図り、今後の国際交流活動及び地域社会における諸活動の推進に貢献するため、山梨県（ハイブリッド）で開催し、全国から180名が参加した。 なお、この大会の第1部は日本青年国際交流機構第40回全国大会と併せて開催されたものである。	令和6年 11月9日、 10日



青少年国際交流事業事後活動推進大会での集合写真

(c) 青年国際交流事業事後活動推進全国代表者会議の開催

内閣府青年国際交流事業の説明及び日本青年国際交流機構の活動状況に関する報告と、その活動を踏まえた情報交換並びに国際交流及び国際親善についての意見交換を行い、国際交流活動や青少年育成活動を活性化することを目的として、日本青年国際交流機構幹事会構成員及び都道府県青年国際交流機構代表者の出席のもとハイブリッド及びオンラインで行った。

項目	内容	日付
青年国際交流事業事後活動推進 全国代表者会議	ハイブリッド	令和6年11月8、9日
	オンライン	令和7年3月8日

(d) 内閣府青年国際交流事業説明会の実施

内閣府が実施する青年国際交流事業の概要説明や既参加青年が体験談等を報告する事業説明会を令和7年2月13日～3月24日に5回実施した。実施に当たっては、既参加青年の協力を得て、事業参加を通じて得た知識や経験、事業の本質や参加することの意義や価値を来場者に直接伝えた。

項目	内容	日付
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和7年2月13日
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和7年2月25日
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和7年3月5日
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和7年3月14日
内閣府青年国際交流事業説明会	オンライン	令和7年3月24日

(e) 青年国際交流事業事後活動年次概要・資料集及び募集広報用冊子の作成・発送

作成物	内容
内閣府青年国際交流事業及び事後活動年次概要・資料集	内閣府青年国際交流事業の概要、歴史、実績及び参加青年の事後活動を紹介した「内閣府青年国際交流事業及び事後活動年次概要・資料集」を編集及び印刷し、関係箇所に発送した。
内閣府青年国際交流事業事後活動ニュース	内閣府青年国際交流事業の事後活動に関する原稿の作成及び印刷し、関係箇所に発送した。



(f) 既参加日本青年フォローアップ調査の実施

内閣府青年国際交流事業既参加青年の事後活動に関する意識調査を実施した。調査事項は、青年国際交流事業への参加による意識の変化、青年国際交流事業参加の成果とし、対象は平成 21 年度、令和元年度及び令和 5 年度の事業参加者とした。

**(7) その他**

(a) 内閣府青年国際交流事業参加青年の選考における支援業務

内閣府青年国際交流事業の参加青年の選考が、ウェブ会議システム等を利用して実施され、その際の選考の過程におけるウェブ会議設定及び副面接官・英語面接官の手配などの支援業務を行った。

(b) DeepL Pro 有料 I D の契約にかかる支援業務

内閣府青年国際交流事業の交流対象国政府機関職員との調整に当たって、外国語（英語を含む十数か国語を使用）を用いたメール・文書を手交するに当たり業務の参考にするための翻訳アプリケーションの契約の支援業務を請け負った。

**B. 他団体の国際交流事業への協力**

(a) 公益財団法人 統計情報研究開発センター（以下、シンフォニカ） 関連事業  
**第 2 回 アフリカ諸国統計職員招聘事業（金丸三郎記念国際交流事業）**

2024 年 4 月 15 日（月）～4 月 27 日（土）、アフリカ 8 か国（エチオピア、ガーナ、マラウイ、モーリシャス、ナイジェリア、セーシャル、タンザニア、ザンビア）から 9 名の研修生が訪れ、東京、京都、奈良、名古屋にて、統計関係情報講座、表敬訪問、関連施設視察、日本文化体験等が実施され運営スタッフとして同行し、報告書の作成を行った。



**第 4 回 アセアン・南アジア諸国統計職員招聘事業（石橋信夫記念国際交流事業）**

2024 年 8 月 26 日（月）～9 月 13 日（金）、アセアン・南アジア 15 か国（バングラデッシュ、ブータン、ブルネイ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、マレーシア、ネパール、パキスタン、フィリピン、スリランカ、タイ、東ティモール、ベトナム）から 15 名の研修生が訪れ、東京、千葉、京都、奈良にて、統計関係情報講座、表敬訪問、関連施設視察、日本文化体験等が実施され運営スタッフとして同行し、報告書の作成を行った。

## 2024 年度 統計・DX 次世代リーダー交流事業 NextStatX2024

2024 年 7 月 2 日（火）～14 日（日）ラトビア共和国から 6 名の研修生を受け入れた。本事業は、IT・デジタル・トランスフォーメーション（DX）分野において先進的なラトビア共和国の青年を日本に招へいし、統計やデータサイエンス、DX などに関し両国の取組みについて情報交換・討議し同分野における両国の発展に寄与すること、並びに交流や文化体験を通じて日本への理解を深め、将来ラトビアと日本のかけ橋として指導性を発揮できる青年を育成することを目的とする初の試みとしてシンフォニカと推進センターが共催した。対象とする研修生も、統計職員に限らず、交流事業既参加青年や IT/DX に興味を持つ青年と幅を広げ招へいた。また、参加者募集や大阪プログラムにつき関西日本ラトビア協会に特段の協力をいただいた。



## 3. 青少年国際交流に関する啓発及び研修の概況

### A 推進委員会議

#### 1. 第 1 回会議

開催月日 令和 6 年 11 月 9 日(土)

開催場所 山梨県富士吉田市 ハイブリッド開催

一般財団法人青少年国際交流推進センター事業報告及び計画等

- 1 内閣府からの令和 6 年度青年国際交流事業関連の契約
- 2 個人会員（推進委員に対する旅費支給）、団体会員（活動奨励金交付要領並びにブロック会議等に対する補助金の交付）について
- 3 その他

#### 2. 第 2 回会議

開催月日 令和 7 年 3 月 8 日(土)

場 所 オンライン開催

一般財団法人青少年国際交流推進センター事業報告及び計画等

- 1 内閣府からの令和 6 年度青年国際交流事業関連の契約
- 2 個人会員、団体会員について
- 3 IYEO とセンターの連携の在り方について

### B. 第 31 回青少年国際交流全国フォーラム

全国各地で国際交流活動に携わる指導者及び青年を対象に、学識経験者の講演及び各地域における青少年国際交流活動に関する事例発表、討論等を行うもので、日本青年国際交流機構の第 40 回全国大会山梨大会第 2 部とともに、ハイブリッドにおいて参加者 180 名を得て開催した。(令和 6 年 11 月 9 日、10 日)

#### 【内容】

##### 1. 山梨県青年国際交流機構 活動報告

内閣府青年国際交流事業の地方プログラムでの受入れの様子、自主事業など、地方における都道府県 IYEO の活動報告を代表とする素晴らしい報告だった。内閣府青年国際交流事業を地方の都道府県 IYEO で受け入れることは、地域における国際交流・国際理解を深める機会を提供する上で大変基調な役割を果た

しているとのことだった。これからも地域における、国際交流活動のきっかけを提供していきたい。

## 2. 懇親意見交換会

### C. 団体会員のブロックイベント(青少年国際交流を通じて国際社会や地域社会への貢献を考えるつどい)

内閣府青年国際交流事業の既参加者の地域における活動の活性化を主な目的として、ブロックイベント（青少年国際交流を通じて国際社会への貢献を考えるつどい 第2部）を日本青年国際交流機構、開催都道府県 IYEO と共催した。

その他、中国ブロックイベント（山口県）、東海ブロックイベント（愛知県）を開催県 IYEO と共催した。

中国ブロック	山口県	対面	令和6年10月26日
東海ブロック	愛知県	対面	令和7年2月11日

## 4. 青少年国際交流に関する出版物の刊行及び広報活動の概況

### A. 機関誌の刊行

国内及び海外における青少年国際交流活動の紹介などを中心とした情報誌である「MACROCOSM」を年2回（A4版）刊行した。133号と134号（特別号）はそれぞれ500部ずつ発行し、関係箇所に配布するとともに、ホームページ上にも公開し、広く閲覧ができるようにした。

### B. 一般財団法人青少年国際交流推進センター事業報告書の作成

令和5年度における内閣府青年国際交流事業及びこれに参加した青年による国際交流活動等の概要、青少年国際交流に関する情報や資料を収集、整理した「令和5年度事業報告書」を作成した。

### C. ホームページの更新・オンラインメディアの活用

ホームページのトップ画像を今年度主催のタイスタディツアー、UAE（アラブ首長国連邦）現地体験モニターツアーの写真に変更し、当センターのロゴの解説や活動理念（Vision, Mission Value）を追加し、センターの使命や価値観を紹介した。併せて、Facebook、Instagram等のSNSを活用し、事業の広報、参加者募集の呼びかけ等を行った。



（一財）青少年国際交流推進センターのホームページ

### D. 一般財団法人青少年国際交流推進センターパンフレットの配布

当センターの事業内容を紹介したパンフレットの内容を改定し、日本語版、英語版を作成して広く配布した。

## 5. 青少年国際交流に関する情報収集及び調査研究の概況

### A. 青少年国際交流事業に関する情報収集

内閣府の実施した青年国際交流事業の既参加青年等の名簿の整備を行った。

### B. 青少年国際交流に関する調査研究

内閣府の実施した青年国際交流事業の既参加青年のその後の活躍状況について、日本青年国際交流機構の

都道府県における各組織並びに「東南アジア青年の船」事業及び「世界青年の船」事業の事後活動組織を通じて調査を行った。

## 6. 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等の概況

### A. 活動奨励金等の交付

都道府県団体会員の地域における国際交流活動の一層の活性化を図ることを目的に、「活動奨励金交付要領」に基づき、令和6年度は、29都道府県の団体会員に対し88件131万円の活動奨励金を交付した。

「ブロック会議等に対する補助金の交付要領」に基づき、ブロック会議等における県外報告者の旅費及び外国青年の参加費の補助として、ブロック会議等に対する補助金の交付要領に基づく補助金の交付は今年度は該当者なしだった。ブロックごとの活動を促進することを目的に、「ブロック会議等に対する補助金の交付要領」を令和5年度に改定し、共同主催事業の補助金、共同主催事業の実行委員会謝金、共催事業の補助金支給をはじめ、令和6年度は、共同主催事業の補助金・共同主催事業の実行委員会謝金については4県、共催事業の補助金支給については、山口県、愛知県に交付した。

### B. コンサルティング事業等

1. 令和6年年5月1日（水）～4日（土）にタイ・チョンブリー県パッタヤーにて行われたSSEAYP国際ナショナル総会実施に当たり、理事長が参加すると共に運営支援を行った。
2. ドイツの青少年国際交流団体であるIJABが、令和6年5月22日（水）～5月24日（金）にInternational Youth Policy Dialogue（国際青年施策に関する対話会議）をルクセンブルクで開催し、日本を代表して当センターが招待を受け、事務局長が出席した。
3. 令和6年12月25日（水）～30日（月）、The ASEAN Plus Three on Skills Development for Youth in Sustainable Eco-Tourism and Agro-Tourismがラオスで開催され、環境問題や持続可能な観光に関連する若手起業家育成を目的としたワークショップ等が行われた。内閣府を通じて、ASEAN事務局より日本代表者の推薦依頼があり、日本青年国際交流機構（IYEO）から3名を推薦した。
4. 令和7年年2月22日（土）～23日（日）に大阪府にて行われた日韓交流連絡会議の実施に当たり、運営サポートのためにセンター職員1名が参加した。

## 7. その他

### A. その他の支援業務等

内閣府大臣官房公益法人行政担当室が主催する、「都道府県公益法人担当職員への新しい公益法人制度説明会」に関する運営支援業務を請け負い、オンライン説明会運営を令和7年3月17日に実施した。

本事業報告について、補足すべき重要な事項はないので、  
附属明細書は作成していません。